

本議事録は、発言者全員の確認をとつたものではありません。

プレス会見概要

(統合本部合同記者会見)

日時：平成23年5月25日（水）16：30～：19：02

場所：東京電力株式会社本店3階記者会見室

対応：細野内閣総理大臣補佐官、西山審議官（原子力安全・保安院）、坪井審議官（文部科学省）、加藤審議官（原子力安全委員会）松本立地本部長代理（東京電力株式会社）

（説明）医療

＜環境モニタリング＞

○東電から

- ・敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第61報）、福島第一の敷地の西側にある西門、福島第二のモニタリングポストの1番でダストを測っているものの、いずれも空気中の法令限度に対する割合1%程度。
- ・海水からの放射性物質の検出について（第61報）、福島第一の沿岸部、沖合いのサンプリングの結果、5.6北側取水口、1.4倍。
- ・土壤の中の放射性物質の核種分析の結果について（統報12）、ブルトンヒューム、5月9日採取したものブルトンヒューム検出されている。国内の土壤で平均的に得られているものと同等のレベルであるが、これまでの結果を踏まえると今回の事故に由来するものもあり得ると思っている。

○文科省から

- ・環境モニタリング結果について、概ね現状について従来と大きな変化なし。
- ・計画的避難区域のデータ多く入っている。海域比較的近い海域の結果が多い。
- ・海洋シミュレーション、第5回目ということで、最新のデータ入れて解析。拡散で薄まっているという結果。

○原安委から

- ・空間放射線量、空気中の放射能濃度大きな変化ない。
- ・環境資料、参考資料16、17ページご覧いただくと、今回文科省で沖合いの測定結果、90から180km、セシウム測っているが、いずれも不検出。
- ・沖合、30km東電のデータ、22日採取のもの、すべて限度値以下。

・全国の都道府県の結果も大きな変化ない。

＜福島第一原子力発電所の状況＞

○東電から

- ・タービン建屋地下のたまり水の移送、2、3号機電源切り替えによる移送中断あり。
- ・午後4時からコンクリートポンプ車による4号機ブールヘッドラン入りで放水。
- ・原子炉圧力容器への注水、1号機6m³/h、2号機7m³/h、3号機1.5m³/h、1.5の内訳は、消火系3m³/h、給水系1.2m³/h、徐々に給水系へ切り替える。
- ・窒素封入についても、9：14から一時停止。
- ・取水口付近で採取した海水に含まれる放射性物質核種分析結果について24日採取分、2、3号機取水口付近、高濃度の放出鑑みて、防波堤周りのサンプリングを実施しているもの。（ほぼ横ばいなし）減少傾向、新たな漏出確認されない。
- ・IAEAに紹介した資料を紹介。

16：49

（質疑）

Q：3号機について、圧力容器にある、MOXの割合は、温度の乱高下、МОХ燃料が原因ではないのか。たまり水の移送先、間にあうのか。

A：（東電）3号機に装荷されているMOX燃料は32体。548体中の32体、その他、通常の二酸化ウラン燃料が516体ということになる。炉内の温度が安定しなかつたが、MOXというよりも、炉心への注水の当たり方が不安定だつたらと思っている。MOXが原因ではない。たまり水の移送については、当初4000m³移送予定だったが、到達しつつあるので、現時点で中断。ポンプの容量×時間で算出、もう少し送れるか評価したい。

Q：もう少し送れるかどうかの判断はいつごろか。

A：日々判断できることと思っている。今回、地下水の水位の関係を確認したうえ、保安院に安全性の確認してもらいたいと思っています。

Q：福島第一の作業員の募集に暴力団の関与が報道されているが、東電としてどういう調査されたのか。
A：（東電）元受けには適正な雇用の手続きをお願いしたいと言つており、暴力団の方が関与しているかどうかまでは確認していない。

Q：反社会的勢力が関与していても、東電は把握できていない。
A：（東電）適正な雇用契約をお願いしている。

Q：協力会社にお願いするだけで、調査されてないと。

A：（東電）そう。

Q：警察のOBを東電は採用しているようだが、元警察官の嘱託等の方にどれくらい謝礼払っているのか。

A：（東電）現在元警察の方が何名か確認させていただく。

Q：後日明確にして。

A：（東電）検討させていただく。

Q：IAEAの調査の関連。24日、この資料を使って、いつどのように説明されたか。今日もそのヒアリングあったかどうか。それらも含めて、IAEAどういった所に関心高かったか、何を聞かれたか。明日から原発規査どこだが、福島第一のどういうところを見る予定になっているのか。

A：IAEAへ昨日の午後説明、場所時間は今把握できていない。政府を経由しての話。どういった形か確認させて。現地は5月27日金曜日に予定、IAEAの希望に従ったルートになると理解している。

Q：具体的にどちらを見られるのか。

A：確認させて頂く。

Q：IAEAどのあたりに関心なったのか。

A：私のところに情報が来てない。

Q：東電に。顧問が減ると発表あつたが、外部の方からでおやめになるのは、経産省白川さん、その他の方は残られるとのこと。どういう仕事をしていって、どのくらい出勤されているのか。空気中の核種分析結果のグラフを見

ていると、ヨウ素131があまり減っていない感じがする。半減期が短いヨウ素減っていないのは、出続けているのではないか。毎日どれくらい出続けているのか。細野さんに、先日、アレバ社のこと内容、金額が不透明なのが気になると、どういう点で不透明さを気にされているのか。海水注入中断の問題、班目委員長は、とにかく水を入れてと強調したと国会でも言つている。そのこと細野さんは御記が憶あるのか、どのように対応されたのか。文科省、給食の問題、輸入の制限、今回500 kBqになっていて、福島の学校に配慮すべきではないかといふ以前の回答をお願いしたい。

A：（東電）本人の誠見、実務経験から業務をしている。契約をそれぞれ結んでいる。実情は控えさせていただきたい。

A：（東電）空気中のダストの核種分析のデータ、ヨウ素131をならしてみると、半減期8日ということで減少している。薄いブルーは、上がり下がりならずと、下がつてきている。新たな放出が起こっている状況にない。

Q：全然出でないのか。
A：（東電）まったく出でないということはない、検出されるほどどの放出がないということ。

Q：そのことに対する国の評価は。

A：（保安院）出ているとすれば、燃料の周り冷却水が熱により蒸発しそれに混ざって出て来ているもの、ダストとしてがれき等から舞い上がっていることが考えられる。多少は出続けていると思つてはいるが、最初の水素爆発のようなのでなくて、30km以遠へはほとんど飛んで行つてないと考えている。

Q：数字は出ないので。

A：空間のダスト測つている。出せるかどうか検討している。

Q：（原安委）環境中のヨウ素、セシウムの量から、放出を逆推定する作業をやつてきた。環境中からは、測れなくなってきた。4月上旬の時点で、ヨウ素、10 kBq/hというレベル。いまはもう一桁小さい、5月12日の原安委資料で報告している。保安院にお願いしているのは、計測で抑える方法を考えるべきでないかとお願いしている。その一環としてまず建屋の上の計測が始まつたものと承知している。

A：（細野補佐官）まず、アレバ社なんですかね、4月の頭に私もアレバ社の社長さんであるとか担当者の方と何度も話をしておりまして、その中では、とにかくまず排水の処理をすることが第一で結果を出そうという、そういうところからスタートしておきました。したがつて、実際にアレバ社

A：(文科省) 給食、原安委から食品の考え方があるとか、さらにはどこまでがアレバ社に仕事を頼む際に、例えば価格であるとか、さらにはどこまでがアレバ社の責任なのか、といったことについても、十分な詰めの作業が行われていないのではないかというかといふうに考えておつたもんですから、先日のような発言をいたしました。ただ一方で、アレバ社は期限を守つて設備を日本に届けておりますし、現地にも社員をして設置の協力をしてくれていますので、そういう意味ではこれまでのところ大変大きな貢献をしていただいているなあと、そのように思ってます。

A：(細野補佐官) 私が申上げたのは、その中では委員長も含めて水がすぐ入るという状況ではないというふうに思つておりましたので、水を早く入れるべきだという話よりは、再臨界とか海水を入れることによつてどういう影響があるのかということについての話が行なわれていたということです。

Q：今だに、透明性がいまいちなのか。いろんな税金が投下されるかもしけない。東電だけで払えると決まっているわけない。金額が不明量といふのはどうにかならないのか。

A：(細野補佐官) 私も直接アレバ社の社長はじめ担当者と会つておりますので、政府としても強く要請をしているどこのことは実態としてあります。ただ一方で、契約の中身といふことになると、これは東京電力とアレバ社という民間同士そういう契約になりますので、なかなか価格の面のところまでは政府としては立ち入れないといふ、そういう領域もどうしてもでてくるというふうに思います。

Q：検察庁の方、国交省の方が顧問等になり、東電にどういうことをアドバイスするか想像できない。具体的に示してほしい。元官僚がどういう仕事をしているのか明らかにしてください。

A：(東電) 当社業務運営に携わっている。契約の関係もあり、控えさせていただきたい。

A：(文科省) 給食、原安委から食品の考え方があるって、その基準は児童を考えて示されたものと説明。であれば、小学校も適用できると考えている。

A：(原安委) 給食について、どうするか一義的には学校設置者の対応の問題。原安委としては、お求めがあれば、適切に助言してまいりたい。

Q：細野さんに。3月12日、海水注入について、FAXを東電が保安院に送つていて、受け取ったか覚えてる人がいない。官邸にも東電と保安院の方いたが、情報共有されてないことにについてどう考えているか。

A：(細野補佐官) 私もそのFAXは見ておりませんし、その情報も直接触れる機会といふのはありませんでした。おそらくかなりの情報がそのときに様々などころを行き交つたというふうに考えておりまして、この部分についての情報の重要性であるとかそういうことについて十分伝わっていないかった面があるのではないかとうふうに思ひます。ただその一方で、午後の3時20分にこういう情報がきているようなんですね。その後3時36分に水素爆発が起こっているんですね。ですから、我々も海水の準備はいろいろされたいということは、そういう努力をされているんだろうといふことは承知をしておりましたけれども、3時36分に水素爆発が起についたことによって我々の認識も現場の状況も大きく変わったんだろうとに思ひます。それで、6時の会合があつたときには、水素爆発の後でもありますので、東京電力の担当の方からは1時間半くらいは水が入らないという、そういう話でございましたので、そういう認識をしていたことは事実として間違いないかったと思ひますし、水素爆発の後ですで3時20分と36分から後では状況が一転をしておりますので、そういう認識があつたということは、これはやむを得ないとふうに思ひます。

Q：3時20分に海水注入の努力をしていたことを承知していたということだが、連絡は？

A：(細野補佐官) 私が申し上げたのは、その後も含めてずっとご努力をされているということを存じ上げていたということであつて、3時20分にそのことを承知していたということではありません。

Q：情報が伝わらなかつたことについては、改善を求めるべきですか。

A：(細野補佐官) それは、どれくらいの情報量がどういったかたちで來ていたのかということに依ると思いますので、私自身もまだどのくらいの情報量が正直來ていたのかということがありますので、なんとも申し上げられません。

A : (東電) 移送先が満杯になるかについては、2号機から1万m³、3号機4,000 m³移送計画。これを移送することで、建物がいつぱいになつていいわけがない、現実問題、建屋側にどれだけ余裕があるか見ていく。地下水の水位を超えない。地下水以上に建物内に水を入れないとして考えしていく、5,000 m³程度は追加で受け入れられるのではないかと思っている、当初と違うので、一度立ち止まって保安院と相談する。移送できないとなると、タービン建屋に溜めていくことになるが、海拔4 mのレンチは、閉鎖作業を完了しているので、漏出は考えにくい。

Q : タービン建屋にはどこまでためられるのか。
A : (東電) 評価中。

Q : 淨化装置のおくれが漏れを引き起すことになるのか。
A : (東電) 冷却浄化設備が6月中旬での稼働が全く動かないとなると、できないが、建設工事は順調に進んでいる。

Q : 汚染水出さないといけないことは想定されているのか。どういった対策を考えているのか
A : (東電) 集中ラドにどれだけ溜められるのか、タービン建屋にどれだけ溜められるのか、7月に高濃度用の地下タンクができ始める、高濃度環境に出さないことで検討している。

Q : 漏らす可能性ないと。
A : 環境中に放出さないということ。

Q : 原安委に質問。ICRPのウェブサイトに、30の国から200人のボランティアからなる団体とある。日本はより厳しい基準を作ることも可能であると思う。権威がある、文科省が昔からと言うが、科学の観点からどうなのか、より厳しい日本の基準を作るべきではないか。

A : (原安委) 30の国200人のボランティアとは、勧告を検討するための参加されている専門家のことを言っているのだとと思うが、基準まとめるにあたりパブリックコメントもやっていると聞いている。勧告で示された考え方、数値はIAEAの規則基準類にも使われ、広く世界で使われており、原安委としては、全政界で広く取り入れられて、現時点では、我が国で使うことは適切と思っている。

Q : 移送できなくなったら、どれだけ可能なのか。満杯になつて漏れ出す可能性は想定されているのか。

Q : 判断できないことだが、海水注入は、廃炉にも繋がる大きな問題。官邸が把握できなかつたことについて適切だったのか。
A : (保安院) この紙の認識を説明する。これを軽んじるということはないが、主要な情報が別にあり、付随情報で海水注入予定と書いてあり、紙で配られた。この紙を認識できなかつた。ただ真水ダメなら海水という認識はあつた。この紙がどうこうということよりも一致しないことを御理解いただきたい。
A : (東電) 一刻も早く冷却、発電所は着実に準備進めている。準備ができ次第注入するという準備段階の連絡だった。これまでやつてきたことを追認したことの報告だった。

A : (細野補佐官) 情報が共有されなかつたことについてですが、まあ当時はですね、おそらく福島第1原子力発電所は様々に行つていた情報と、この本店が得ていた情報と、官邸保安院それぞれの情報の色々な通り取りがあつたと思うのですね。その中でやはり、本当に必要な情報といふものは直接電話で通り取りするということをやっておりまして、そういうふうで伝わっていた情報は比較的スムーズに伝わつて来ましたといふ印象がございます。ですから、例えば当時官邸でそのファックスをみんなで見て、情報を共有するといふことは、そういうふうがやむを得ないことがあつたのかなど思つたというのは、まだ情報がスムーズに行くに超したことはありませんでした。ま、ただ情報が来ていたといふこともあるといふことでしたので、はたして、情報の通り取りのしかたとして適切だったかどうかというところは、一つの検証対象としては、あるだろうなと思います。

Q : FAXについてなくても、海水注入することは、共通認識ということだが。
A : (細野補佐官) むしろ、近いうちにはできなくなると思っています。海水注入はしたいという思いは、発電所も東電も当然政府も同じだったんです。ただ、水素爆発の後でもあり、とてもできないという状況だと、少なくとも6時からすると1時間半ほどはできないふうに我々は考えています。

Q : FAXについて、原災法の15条通報とのことだが、紙でないといけないという決まりはあるのか。停止の車路も紙でやつたのか。15条通報受けるのは、どこか決まつてなかつたのか。15条通報の扱いに問題なかつたのか。IAEAに説明されたという資料に、東電の解釈結果、メルダウンに至つた解析がないがそれも説明しているのか。

A : (東電) 原災法15条の通報は決まつたフォーマットがある。紙でやり取りすることになつている。情報の正しい受信と発信のため、決められている理解しているが、紙でないといふわけがない。海水注入の準備段階だったので、右下に参考情報までに書いたもの。停止についてどうだつたか確認させて。IAEA、地震津波について伝えた。どういった議論しているか私のところで把握できていない。

A : (保安院) 防災課にFAX届くことになつている。

Q : 注入は原災法15条の通報に当たるのか。実際に当時も防災課が受けたのか。IAEAから地震津波について求められたのがこれだけだったのか。後日解析について説明するのか。

A : (東電) このあと20:20に海水注入行つた際には、原災法に基づく通報連絡を紙で行つている。今回なぜ口頭連絡してしまつたのかわからぬ。まづ口頭で連絡入れたのだと思う。IAEAについては、昨日24日分といふことで説明したといふこと。

A : (保安院) 防災課は受け取つている。必ず受け取ることになつっている。これは確立したやり方。

Q : 第3者委員会で、東電の送電網と発電施設の試算もされるのか、送電発電分離を進めるという菅総理の発言。検討の場は政府の新成長戦略会議の分科会なのか、経産省のエネルギー賛成人会議なのか、賠償スキーム、同時並行なのかどちらが先なのか。

A : (細野補佐官) 政府関係者が何度か答えていましたが、電力会社の経営の形態についてはタフーを磨してですね、色んな形を徹底的に議論するというスタンスは、これはおそらく共通しているだろうということです。第3者委員会で資産の売却について、色々と考えるということですので、そこはどういったものを対象とするのかというのには、その第3者委

員会がお考えになるのではないかといふうに思います。それと議論する場所ですが、当然経産省の方の賛成人会議はそういう一つの対象となるのだといふうに、私は考えておりますし、また、成長戦略会議もそういう議論を対象とする可能性はあるとうふうに思います。ただ、今はあまり特定のここで検討するというこことを決めると言ふことではなくて、しばらくは色々な議論を様々な所でして、その例えば、メリットであるとかデメリットであるとか、そういうこととは、ある程度時間をかけて議論をしてゆくなかで方向性を出してゆくべきものではないかなというふうに思っています。

Q : エネルギー賛成人会議は、御用会議。改革派の議員を入れてやるべきでは。
A : (細野補佐官) 賛成人会議はすごくバラエティに富んだ興味深いメンバーの皆さんが入つておられるという印象ですので、御用委員会といふことでは無いのではないかと思います。後は、もちろん経産省の中でもいろいろと議論されるべきでしょうけれども、政府全体で様々な議論がこれから行われるということになると思いますので、そこだけで議論して何か方向性が出ているということでは無いだろうといふうに思います。

Q : あと5,000t上乗せできるとのことだが、具体的にどの建屋か。アレバの装置は半月遅れているようだが状況は。7月に完成予定の地下のタンクの今の状況。立坑を塞ぐ作業の状況教えて。出てしまつた時の策はあるのか。

A : (東電) プロセス主建屋に4,000m³、雑固体減容処理建屋に1,000m³程度あろうかと思っている。そういう評価をやつしているところ。正確なのは時間がかかる。アレバの装置は、一部試運転が上旬から始まる、半月遅れたわけではなくて、設備の製造がこの時期になつたものと理解、高濃度用の地タンク、7月から福島第一に搬入始まつてくる。トレチ、ピット関係については、現時点で流出可能性低いところも閉塞を進めている。万一一ということもないよう、リスクの小さいのも閉塞作業している。

Q : 細野さん、プラントパラメータとして公開しているもの、4号機対象外となつている。これ出してほしい。あわせて過去の分も出して。東電にてプリントした紙をお渡ししている。5月9日撮影された写真、監視カメラ監視中となっている。監視カメラの録画の内容を公表していただけない

か。二本メディフィックスが体内除去剤を1000部、1部36カプセル入りを輸入して政府に納めたようだが、これはどうなっているのか。東電へ要望、ブルトニウムとストロンチウムの測定依頼の日、結果を知った日、公表済みかどうかを一覧にして公表いただけないか。東電への質問、空の4号機原子炉、燃料棒最後取り出したのはいつか、空になつた炉の冷えた後の温度、3月11日、4号機の温度、どれくらいになつていたのか。

A：（細野）まず4号機の原子炉の方のデータですけれども、これは定期検査中、ということで当初から私もあまりデータを気にしたことが無かつたし、見てもこなかつたということです。
公開できるものがないかどうか検討してみますけれども、ご主旨をもし教えていただければ教えていただきたいなと思います。希望の趣旨を教えて。

Q：現状、4号機そうとうがロボロ、中の状況どうなつているのか。データがあれば出すべきでないか。

A：（細野補佐官）わかりました。どういったデータが残つているかも含めて確認をしたいと思います。

あと、このカメラ監視中という写真はいま見ましたので、どこのどういうデータちょっとと私にはわかりませんので、引き取らせていただきたいと思ひます。

この事故に関する情報は出来るだけ公開するということだということだと思いますが、元々東京電力が設置をしていたものであるというふうなことは、東京電力に確認をして東京電力の判断はどうかということを確認してみたいと思います。

Q：他の号機、構内の監視カメラもあると思うので確認お願ひします。

A：（細野補佐官）はい。確認出来るところがどこかといふことも含めて引き取らせていただきます。
あと、メジフィックスという話はすいませんちょっと私初めて聞きましたので確認させてください。

A：（東電）監視カメラについて、補足させて頂くと、核物質防護上設置しているもの。公開する予定はない。テロリスト対策のため設置している。あつたとしても公開できない。ブルトニウムとストロンチウムの結果、分析者を公表している。4号機から燃料取り出ると、制御棒格納しているので、

データ見ないと分からないが、圧力容器水が入つていたのでほぼ常温であると思う。使用清燃料プールにすべて燃料行つてるので、そちらのパラメータが重要。

Q：監視カメラは、細野さんにお願いした。4号機のパラメータ開示お願いする。

Q：松本さん、12日19：25、停止した理由、官邸で再臨界の可能性懸念されているので停止したという説明。タケクロフェローから伝わったといふことですか。

A：（東電）当時はタケクロ口が駐在していたが、実際誰から誰に伝わったのかははっきりしない。

Q：当然、タケクロフェローは、試験注水をやつてることを知っていたと思うが。

A：確認できない。

Q：そうしないと官邸の懸念が東電に伝わるのはおかしくなる。

A：官邸では、検討されていた。確認できていない。

Q：常識的に考えて、海水注入していることを御存じで、官邸の懸念が東電に伝わって、止めたということだと思います。フェローは、海水を注入していることを総理、大臣、どなたにも伝えてなかつたという理解でよいのか。

A：（細野補佐官）海水については、まだ入らないというふうなことを前提に進んでいたと思います。なかなか入らないというふうなことを前提に話が進んでいたと思います。

Q：この関係、危機管理能力あるのか間われている。もう一度タケクロさんにこの場に出できてもらって説明してほしい。

A：（細野）たしかに、できるだけ正確にというところがありますね。ただ一方で、私が直接お願いをして出でてもらいたいという経緯なんですね。一方だけではありませんとたぶんおー彼は全体のプロジェクトを仕切つております。ここに出るところがありますよ。なので、そこは松本さんが東電の立場を代表して答えてくれていますので、松本さんに確認してもらつて正確に伝えてもらいうかたちでいかがでしょうか。

Q：やりとりのところをもうちょっと、はっきりしていない部分があり、わりと基本的な部分だと思われるため、最低限確認してほしい。
A：（東電）私の方でとりまとめて皆さんに報告したい。

Q：たまり水の総量、公表しているが、データの更新があるかないか2点目、メルトダウンしているかどうか、それによって注水量を変えることはあるのかどうか。メルトダウンの認識あつたのかどうなのか。
A：（東電）先週のものが最新と思う。更新の都度発表させていただいている。炉心冷却が第一、注水経路を確保。発生する残留熱に対し必要な量が供給できているか、燃料の形状によらず、核燃料の量による。溶けているかどうかが直接冷却の量に関係しない。

Q：メルトダウン初期の段階から認識あつたのか。
A：（東電）メルトダウンは、はっきり検証できない。空焚き状態になれば、被覆管が損傷し、ペレットが溶けて、落下することは予測できているが、必死で注水をしていた。冷却を優先して考えていた。

Q：松本さんに。プロセス主建屋と高温建屋の床面積。アレバのシステム、汚染水を除去した後、タンクにどれだけ貯められて、どれくらいの頻度でフィルタ等交換するのか。国土地理院が地形の変化を発表しているが、地震の評価に入っているのか。西さんには、海外からの線量計が留め置かれているとのこと、その行方は分かったか。
A：（東電）プロセス主建屋、 $4,700\text{ m}^2$ 、これは壁扉を含んだ数字。残留熱は間もなく出せる。フィルタの交換頻度は、まだはつきりしたものはない。当日の地盤の変動、GPSで測定を開始しているところ、終わりしたい公表させていただく。

Q：汚染物除去した後ためとくタンクはどれだけ。

A：（東電）所定の量準備できていると思う。

Q：地盤、これから変更あるということか。

A：（東電）地盤についてはある。

Q：残留熱ないと、これからどれだけ冷却する必要。

A：（東電）1・2MWaと分かっている

Q：なぜ時間かかっているのか。
A：日々用意できる。

A：（保安院）カナダ、ロシア、韓国、EU（フィンランド）等から測定機器届いていて、まだ測り出すまで校正が必要なもの、調整が必要なものを除いては、それぞれの機関に届いていると聞いている。まだ調整してて、倉庫にあるものもあると思うが御心配いらない。

Q：いつ何処にどれ位どうなっているか、可能であれば教えて欲しい。
A：（東電）先週のものが最新だ。更新の都度発表させていただいている。

Q：数がどれだけあって、いつ届くのか。
A：詳細わからぬが、それぞれ一定の時間かかっているが、非常に数多い。

Q：数、届く時期、これからスケジュール教えて。
A：お示しのし方を検討する。

Q：作業員の募集、あっせん、雇用に暴力団が関わって利益あげている、中に騙されて原発につれて来られた人もいるという。政府は調査されてないのはどういうことか。顧問の問題、税金でしりぬぐいの段階、政府としてこれを容認するのか。東電と暴力団の関係。すぎもと刑事局長、確認してもらって、本人がいいとか悪いとか言ったことを、この場で言つてもらいたい。

A：（細野補佐官）まず、作業員の募集についてですが、政府として、様々なトラブルがあるということを問題なしと考えているわけではありません。特に、建設会社の関係のところいろいろなことが言われておりませぬ。政府の関係機関とも連携をしながら、できるだけ適正に働いていただけるようになやつしているところでございます。その努力はしつかりしているということを申し上げたいと思います。一方で、顧問の皆さんからこの要請がありまして、私の方から直接強く東京電力に要請をして公開をしました。あとには、個人の資格で採用されている、もしくは、顧問ですから、契約をされているということでござりますので、そこ自体に政府としてこれ以上立ち入るというのにはなかなか難しい面があると、あとは皆さんの評議だらうというふうに思います。

もう一点、先程、読売の方でしたつけ。2列目の方のご質問で、7時半とおつしゃいましたか。7時半ということですね。そのときは水が入ったということはタケクロフェローからはご報告がありませんでしたので知りません。

ませんでした。ただ、7時半という時間はちょっと私も正確に記憶していませんでしたが、7時40分から再度協議をしておりまして、そのときはできるだけ早く水を入れようと。1時間半経つてますので、水が入るのではないかという議論をしておりましたので、そこからはそれでまっすぐ走つて水を入れたということです。

A：(東電) どうい回答をさせていただくか、会社として判断させていただく。暴力団との付き合いはありません。

Q：2号機からのたまり水の移送について、再開されたのか。2号機の最新の値、あと何日で移送を止めになるのか。
A：移送については会見終了時にお示しする。

Q：残留熱、たまり水について質問。終始のデータはどうなのか。2号機、3号機の汚染水の移送について、5000m³可能とのことだが、地下水に影響しない範囲でということか、その場合は保安院に確認するのか。角落としの状況はどうか。

A：たまり水のバランス、日々保安院に報告する。5000m³追加、地下水との格み、詳細な評価が必要。10000m³、40000m³と当初判断して、データ出している。保安院と御相談し、安全の確認させていただく。角落としについては、角の準備がまだ。

Q：総量見積もりが、トータル、いくら漏れているのか。20万トン、いくら蒸発しているか教えて。詳細の数字を出そうとしているのかその計画。タービン建屋に溜めるとのことだが、現状を放置すのかタンクを考えているのか。メガフロートについては、現状のステイタスと今後の使い方を。

A：(東電) 水のバランス、タービン建屋の水位、床面積から評価。蒸発熱見込んだ評価、正直なコンピュータを用いた計算ではない。実測に基づく計算。メガフロートについては、サドレンのような低濃度の移送を考えている。タービンへ建屋の貯め方、復水器から可能と思っている。週単位で入ってきている、
Q：トータルの総量、ざっくりしたものはないのか。

A：タービン建屋は、先週出したものと大差ないと思っている。

Q：ストロンチウム測定地点を増やすことの検討状況如何。食品については、以前、厚生省の担当者呼んでいただいて、よい情報提供に感謝。説明受け取材してみた、食品安全の部署、日常の業務をもつていて、放射線の業務が上乗せになっている。職員も潭沢でなく、負担感をもつている。基本的に自治体の食品の衛生管理をやつている方は放射線の知識が必ずしも十分ない、機材の問題もある。今のやり方では、降つくる放射線の影響を評価しながらは、不十分でないか、ご見解を。

A：(文科省) 陸上10か所、測定に入っている。3週間とか時間かかる。海洋5か所、海水と海底土、それなりの濃度あるところ探してははず。実際計測に入ったか確認する。

A：(細野補佐官) 食品安全についての山崎さんのご見解はいろんな意味で課題を提供されているなど思います。つまり、自治体がやる業務だとは言いかがら、国民の皆さんからすると本当に安全のかということについてご懸念を持つかけてございますから、足りない品目がないかとかどういつたかたちで調べるのがいいのか、そういうことについては国が責任をもつてできるかぎりのこととはやるべきだと思います。その意見も政府内でしつかり言つていきたいというふうに考えております。

Q：ストロンチウム、10か所のままですか。決定的に少ないとと思うが、そのままか。

A：測定のキャパシティもある、結果、値を見て検討したい。かつての測定分で低かった。半減期長い、過去に取った分から分析もできる。10か所が基本でやっている。

Q：チェルノブイリでは、ストロンチウム、α、β、福島第一は違うのかもしれないけど、一番住民が不安。前回にやつてほしい。食の方は、こんな食品药品も出たとなると不安感が広がる。自治体の力量を評価した上で、対策決まつたら発表して。

Q：参加の登録煩わしい。途中でこの会見に出られなくなつたジャーナリスト
いると聞いたがなぜか。

A：(事務局) お一人いる。聞くに堪えない発言をされていた。いろんなところ会社等で規約、コード定められていると思う。質問の仕方がこの会見の場にふさわしくないのではないかと議論、判断し、その人には御遠慮いただいた。

Q : 公人か。
A : 公人。
Q : だれか。
A : 事務局で判断。

共同通信中田

Q : 汚染水について、3号機5,000m³でいいのか、これ東電。津波でなく地震で重要な配管の一部が破断していた可能性について、改めて格納容器に穴があいて高濃度汚染水が出ていることにたいするコメントを。

A : (東電) 汚染水については、2も3も受けられる容量にある。

A : (保安院) 3号機高压注水系への蒸気配管から漏えいを仮定して解析している、12日の12:00ごろ、解析上の5月30、保安院として明らかにする必要あるとおもっている。ポンプの封止部の漏えいの可能性、破断であるとは限らないと思っている。ある程度時間かけてリークしていた。高圧によらず、核心の状態に影響ないとと思うので

A : (細野補佐官) 可能性の一つとして、そういうことが言われているということ 자체はしっかりと検証されなければならないと思います。当然、現実的な問題としてしっかりと検証されなければならぬと思いますので、まずは保安院がしっかりと分析をした上で様々な検証の中でそこは徹底的に解明されるべき問題だというふうに思います。格納容器に穴が空いているという話ですが、これは、2号機、3号機においては、早い段階からどうも水漏れが起きているということでしたので、私どももその状況にあるだろうということは承知しております。さらに1号機でも、ということをございますので、そこはそういう事実として厳粛に受け止めなければならない

といふふうに思います。

えがわ

Q : FAX差出元は本社か。どちらの部署か。顧問の件、契約の中にどういう仕事に任せられるか秘密にするということがあるのか。

A : 差出人は発電所で吉田所長。

契約の中身に関すること、改めて確認させていただいて回答する。

Q : FAX、確実に届いたかどうか、危ぶまれる状況、FAXで大丈夫か電話で確認しないのか。実際に入れたといふことも送信していて受け取ってないこもあり得るのか。

A : 電話で確認している。
Q : 海を入れたは電話だけ。
A : 19:04は電話での連絡。

Q : それは確実か。
A : 。
Q : 理由は。
A : 上出やり取りすべきであるが、当時昨冬した中でんわだった。

Q : 原子力政策、エネルギー政策の見直しについて、経産省の質問とかいろいろ検討されているようだが、原子力政策大綱の見直し先決ではないか。大元は原子力委員会が作る大綱。これとの関係どうされるのか。原子力委員長、委員は、民主党政権になってから再任されている。委員の見直しされないまま検討に入っていくのか、その後見解。定検後の原子炉の機動どうするのか、今夏の電力需給を考えて、菅首相の方針は認めるとのことだったが、現実は、地方の懸念でうまく言ってない。このへん補佐官に伺いたい。

A : (細野補佐官) まず、エネルギー政策大綱ですが、これは非常に重要な政策のひとつの方を示したものだというふうに思います。ただ、原子力政策そのものとということを超えて、自然エネルギーも含めた総合エネルギー戦略そのものをおそらく見直すことになるんだと思うんです。これ自体は、それこそエネルギーのベストミックスを求めるという非常に大きな政策とすることになりますので、まずはその見直しをしつかりやって、その上で原子力についてどういったことを考えるのかという、そういう順番になるのではないかといふふうに、これは私個人的な意見ですが、思っております。次に、原子力委員会の方でよろしいですね、ご質問は。原子力委員会委員はそれぞれいらっしゃるわけですが、メンバーをどう変えるかということよりは、安全委員会も含めて、保安院も含めてですね、原子力に関わるそれぞれ行政組織のあり方そのものをどうするのかという議論がお

そらく検証委員会をはじめあちこちで行われると思いますので、それをできるだけ時間をかけて議論した上で方向性を出すべきではないかなと、そう思います。

最後に定檢ですが、これはもう本当に純粹に保安院と経済産業省に関するところでございますので、大変申し訳ないのですが、補佐官という立場から言うと、本当にそこは省内の問題ということになりますので、私の方からのコメントは差し控えたいというふうに思います。浜岡原子力発電所は大きな政治決断があつたわけですが、それ以外の原発についてもしっかりと安全確認を行つた上で保安院が判断すべきものというふうに思います。

A：定檢中、稼働中のもの、緊急安全対策重要、福島のような津波、冷却機能確保、非常用電源、電力系統、3段階で対応している、保安院は現場の確認、緊急安全対策確認、DG確認、津波対策含めて、福島並であれば、安全確保できている。あとは地元にどう分かってもらうか、安全の状況、よく説明して御理解いただく方向で進めいくのだろうと思っている。

Q：時期的めどが必要と思うが。

A：保安院としては、すでに対策は取られている。じもとに御理解いただきよう、日夜説明しているところ。正確の御理解いただきたい。

Q：スペクトルの生データの公表お願いしているがその状況、プロトニウム、サンプリングから時間がからなくなっているが、取水口主要3核種しかでない、こういうものをJAEA、分析センターに輪回して早く出しことはできないのか。現場の作業員雇用問題のある状況、工程表ブレッシャーがかかることがある。協力企業に機材の管理任せている、現場の人員、機材、詳細を確実に政府で確認していくことは考えられないのか

A：（東電）スペクトル、6月上旬目途で進めている。その他の核種、公表している。主力3核種で傾向分かれている。速報値でお提示の3で漏えいあるのかないのか分かろうかと思っていて。その他の核種慎重に確認した上でお示したい。

Q：3月26日に、タービン分析誤りがあって、その後出てこなくなった。3月26のだけ早くスペクトル出せないか。傾向分かるとのことだが、ストロンチウム、けいかくしていくとのことだったので、アルファ含めて早く出だ方がいいと思うが。

A：（東電）スペクトル、一部というより、今まで用意しているのでそこで、ストロンチウムβ核種、時間かかるが定期的にお示し。観測の結果から把握できている、特にストロンチウムだけ上昇するようなことはない、なにか急いで測るのは、3核種で十分と判断している。

A：（細野補佐官）作業員の皆さんの環境を良くするということに関しては、政府はあらゆる努力を惜しません。医療の問題や労働環境の問題、あらゆるバックアップをしていこうというふうに思つております。その一つの表れとして厚生労働省の方に新しいそういう室を立ち上げまして、現在もすでにそうち後押しの活動をしております。およそ東京電力の社員や関連会社については、どういった状況かということについては、先日皆さんには報告書を申し上げたんですが、なかなか把握が困難なのが建設会社の方でございまして、今関係省庁とも協議をしながらどういったかたちでそうちました皆さんのお作業環境を良くできるのかということについて把握に努め、後押しをしようと努力をしているところでございます。

Q：人が足りているとか足りていないとか、実際に作業する上で最低限の人数を把握するのは当然であり、それを把握しないで工程表のスケジュールがでているのはどういうことか。

A：（細野補佐官）およそそういう活動するのに、具体的に工程表の結果を出すのにどれくらいの人数が必要なのかとということについては、把握をしておられます。それに向けてどういったかたちで後押しができるのかといふことで検討をしているということです。

Q：把握しているのであればその人数を出して。

A：（細野補佐官）必ずしも正確なデータではありませんので、様々な仮定をおいた中での数字になつておりますから、どういったかたちで皆さんにご説明できるかちょっと検討していきたいと思います。

毎日新聞おかだ

Q：海水注入をしたFAX、電話でも保安院にしたと言つたが。

A：19：04の注水は電話の連絡のみ、FAX送信していない。どなたからどうなかか確認させて。

Q：3：20の際、電話でもといったようだが。

A：確認したということ。

Q：どなたから、保安院のどなたに。

A：担当者から保安院の担当者へ、だとおもう。防災課が窓口。

Q：電話うけた方わかっているのか。

A：恐らく防災課と思うが、それだからと言つて、紙の取り扱いについては先ほど羅い私が説明していることになる。

Q：昨日公表したデータのうち、パラメータ、無断複写禁止とある、公表するつもりあるのか。

A：著作権あるものは社内のルールで付けている。

Q：他の公表資料には書いてないが。

A：確認する。

よこたはじめ

Q：飯館村、酪農家政府に陳情。再出発することまで賠償していただくことを約束してもらえないといふと、決断できないこと。再出発前提の賠償といふ理解でよいか

A：（東電）損害賠償については、文科省の審議会の指針に従つて実行していくたい。

A：審査会の意見が尊重されるべきと考える

Q：努力するだけでなく、約束していただけないのか。

A：（細野補佐官）そいつた皆さんのが思ひであるとか希望というのには本当にしつかり受け止めなければならないと思うんです。

ただ、どういったことを再出発するといふうに考へるのかといふことは様々なそれぞれの皆さん状況があるといふふうに考へるのかといふことは様々々それぞれのみなさん状況があるといふふうに思ひますので、そういう状況に出来るだけきめ細かく対応する中で後押しをしていくといふことになると思ひます。

Q：再出発とは、飯館村で酪農を再出発する。廃業せよといわれてない。将来的には農業できるところになるといふ認識でよいか。

A：（細野補佐官）もちろんそういう可能性を我々としては当然目指していくと

いうことだと思います。

Q：指針に従つてそういう努力をさせていただきたい。

18：55

＜東電から本日の進捗の報告＞

・本日17：00時点での原子炉容器への注水量

1号機 6m³/h、

2号機 7m³/h、

3号機 消火系3m³/h、給水系13.5m³/h。

3号機については、計器をポンプに近いところに移動したことによつては、計器をポンプに近づけるために伴う読み値が変わつたため。

・1号機、窒素封入一時停止。15：00現在132.2kPa、31.800m³。

・4号機、SFブールへの放水16:00から140t、ヒドラン入り予定。

・2号機タービン建屋の水位3774mm。朝7:00から13mmの上昇。ポンプ一時停止。総移送量9,306m³。2日後10,000m³に到達見込み。

・3号機からの移送している集中処理建屋の水位2,004mm。朝7:00から14mm上昇。設備点検で停止しました。

・トレーンチ、立坑の水位、

1号機ダンクスケール、2号機3,264mm、3号機3,501mm。

・タービン建屋水位、

1号機5,050mm、2号機3,228mm、3号機3,494mm、4号機3,482mm

・飛散防止剤クリコートの本格散布、有人作業で不燃物処理施設周辺8750m²散布。明日、フローラダンプと有人の散布予定

・リモートコントロールによるがれきの撤去、1号機原子炉建屋北側周辺コンテナ3個分。作業終了時これまで累計205個。

・3号機大物搬入口は明日実施。

・4号機底部支持構造物の取り付け工事、熱交換室に遮へいマットの設置。明日も継続。

- ・2号機の原子炉への注水ライン切り替えに伴う工事関連で、スクリーン前ビットのコンクリート打設を実施。
- ・4号機の代替冷却装置の配管接続作業、明日にかけて2次系本格化。
- ・6号機DG海水冷却装置の試運転を予定。

<次回予定>

次回 5月26日（木） 16：30～

19：02